

令和 8 年 7 月月例記者会見

〔01_万博で使用された収納バスケットを市内幼稚園・保育園へ〕

（資料）<https://www.city.ikoma.lg.jp/cmsfiles/contents/0000041/41758/0720-01.pdf>

市長 【別添資料に基づき説明・挨拶】

唐金取締役 【挨拶】

【 質疑応答 】

記者 寄附受領日が 7 月 16 日付けですが、幼稚園保育園では既に使用されているのですか。

市長 既に利用しています。

記者 生駒市以外のアドベンチャーワールドやパタゴニアでも大阪万博で利用されたバスケットが寄附されたということですか。

唐金取締役 大阪万博には大小 2 種類のバスケット各 600 個、総数 1200 個を提供させていただきましたが、そのうち再利用可能なものを 3 分割して、生駒市、アドベンチャーワールド、パタゴニアの 3 者にそれぞれ寄付させていただきました。

記者 幼稚園保育園で使っているお子さんの反応を聞いたり、様子をご覧になられましたか。

唐金取締役 まだ、見ておりませんが、見に行く予定です。

市長 子供たちの様子のご報告に加え、直接、訪問いただいて子どもたちの利用状況を見ていただければと思っています。

記者 市販はされていますか。

唐金取締役 通常のモデルとしてオンラインショップや思いに共感していただいた全国の販売店の皆様にお取り扱いいただいております。

市長 唐金取締役には、小中学校の生徒向けに環境教育の講義もしていただいておりますが、今度は、園児向けの環境教育にも取り組んでいただけるという申し出もいただいております。

唐金取締役 大阪万博に提供させてもらったバスケットを利用して、プラスチックの紙芝居などでもきますので園児の皆さんの前で講義しようかなと思っています。

記者 このバスケットで使われている海洋ごみの量は、どのぐらいのでしょうか。

唐金取締役 大きなバスケットの質量が 1 kg なので、そのうち約 100g、小さなバスケットが 750 g なので約 75 g の海洋ごみをそれぞれ利用しています。

記者 大阪万博のどちらで使用されたのでしょうか。

唐金取締役 西ゲートと東ゲートの出店していた店舗やオフィシャルショップの買い物かごとして設置、使われておりました。

記者 バスケットの製造については以前からされていると思いますが、使った海洋ごみの総量はどれほどですか。

唐金取締役 2023 年 4 月からこのプロジェクトを開始しており、今まで再利用した海洋ごみが約 1700 kg で、その分の海洋ごみが対馬から確実に消えて、耐久消費財に生まれ変わっています。また、併せて対

馬市には海洋ごみ 100 g に対し 100 円の寄付をしており、総額で約 170 万円の寄付額となっています。
また、詳細な海洋ごみの削減量や対馬市への寄付額は、株式会社リングスターのホームページで公開しているをご覧ください。

〔02_浜口倫太郎さん講演会〕

(資料) <https://www.city.ikoma.lg.jp/cmsfiles/contents/0000041/41758/0722-02.pdf>

(チラシ) <https://www.city.ikoma.lg.jp/cmsfiles/contents/0000041/41758/0722-02-01.pdf>

市長 【別添資料に基づき説明】

浜口様 【挨拶】

【 質疑応答 】

記者 8 月出版の第 2 弾の小説のタイトルをおしえてください。

浜口様 「天空遊園地まほろば 時を結ぶ花々」で、ポプラ社から 8 月 5 日に出版されます。前作の 1 巻目は 5 つの連作短編の作品ですが、今回は 4 つの連作短編です。1 巻目、2 巻目どちらからでも読みやすくなっています。

記者 2 巻目ということですが、シリーズ化されるのでしょうか。

浜口様 読者がついて、売ればそうなると思います。

記者 今回の作品、前作とも生駒山上遊園地やケーブルカー、飛行塔などが出てきますが、どのような思いがあるのでしょうか。

浜口様 いま生駒市在住で、生駒山上遊園地には小さいころからよく遊びに来ていたこともあり、ケーブルカーや飛行塔には思い出も多いです。特に、飛行塔は戦前からある最も古い鉄製の遊具であり、戦時中の金属供出にも免れた奇跡の飛行塔であることから、亡くなった人にもう一度会える奇跡と絡め、前回、今回と二つの作品につながっています。

記者 講演の内容はどのようなものになりますか。

浜口様 今回の講演では小説のお話と、小説家に加え放送作家として二刀流の職業をもっているの、そちらの業界のお話や 600 字で書ける 1 分小説の短編集を出版していますが、それが NHK で番組になった話なんかもできるかなと思っています。

記者 講演の関連企画として、「天国への手紙からもう一度、会いたい人へ」とありますが、ご自身の飛行塔への思いと絡めてどのようなものになるのでしょうか。

浜口様 小さいころから親に連れられて、生駒山上遊園地には遊びに来ていたこともあり、多くの思い出があることは先ほどもお話ししましたが、日本で一番古い遊具であり、現在も残っている飛行塔に奇跡を感じています。

今回の関連企画では、応募につきましては、もう一度会いたい亡くなった人への手紙を市の応募フォームからか、郵送、または持参して専用ポストに入れていただくと聞いております。その後、いただいたお手紙は、お焚き上げされるとも聞いておりますので、もう一度会いたい亡き人への思いが伝わればと思います。

記者 ありがとうございます。

〔03_「GIVINGBACKNEXTGENERATION×ischool」ゲストに尾崎世界観さん（クリープハイプ）をお招きします！〕

（資料）<https://www.city.ikoma.lg.jp/cmsfiles/contents/0000041/41758/0722-03.pdf>

（チラシ）https://www.city.ikoma.lg.jp/cmsfiles/contents/0000041/41758/0722-03_01.pdf

〔04_「IKOMA Sanjo Sound Picnic」を開催〕

（資料）<https://www.city.ikoma.lg.jp/cmsfiles/contents/0000041/41758/0722-04.pdf>

（チラシ）https://www.city.ikoma.lg.jp/cmsfiles/contents/0000041/41758/0722-04_01.pdf

市長 【03. 04 別添資料に基づき説明】

記者 GIVINGBACKNEXTGENERATION×ischool のイベントですが、学生が無料となっていますが、その範囲を教えてください。

担当課 対象となる学生の年齢区分は設けておりませんので、学生の方であれば無料でご参加いただけます。

記者 今回、尾崎世界観さんが参加ということですが、生駒市とのゆかりがあるのですか。

担当課 直接ゆかりのある方ではありません。今回、企画運営会社からの提案の中で尾崎さんが出演いただけることになりました。

〔05_6月26日豪雨の災害対策本部を閉鎖しました〕

(資料) <https://www.city.ikoma.lg.jp/cmsfiles/contents/0000041/41758/0722-05.pdf>

〔05-01_県へ要望書を提出〕

(資料) <https://www.city.ikoma.lg.jp/cmsfiles/contents/0000041/41758/0722-05-01.pdf>

〔05-02_要望書〕

(資料) <https://www.city.ikoma.lg.jp/cmsfiles/contents/0000041/41758/0722-05-02.pdf>

市長 【別添資料に基づき説明】

記者 県への要望書の担当の部署はどこですか

市長 知事や副知事とのスケジュール調整が難しかったことから県土マネジメント部長に受理していただきました。

また、竜田川の水位計や監視カメラに不具合があったことから早急な対応を口頭でお願いしております。

記者 竜田川の水位計や監視カメラについて不具合があったということですが、その内容教えてください。

市長 水位計は、短時間に非常に多くの雨が降りましたので、想定の計測値を超える数値を検出したことで、システムエラーと認識したため「閉局」との表示になり、竜田川の水位が確認できない時間帯がありました。また、監視カメラも、一時つながらない時間帯があったということです。

水位計につきましては、既に奈良県で対応いただき改修済みであることを聞いております。

監視カメラについては、一時期に多くの市民がアクセスをしていましたのでつながらなかったように聞いております。

記者 今回の不具合で市の対応に何か影響があったのか教えてください。

市長 今回の水位計や監視カメラの不具合が、直接的に市の判断を遅くしたということではないと考えております。

今回の豪雨では、竜田川が今までにない短時間で溢水しました。その状況下で道路と川や水路等の境目がわかりづらく、避難所への誘導は難しいとの判断もあり、雨量が落ち着いてから避難指示を出しました。

ただ、市民の皆さんも確認される水位計や監視カメラは、情報の発信・共有ということでは非常に重要でありますし、判断材料の一つでもありますので、奈良県に対しては今回の要望時に口頭で対応をお願いしております。

記者 水位計は市内に何ヶ所設置されているのですか。

危機管理監 水位計は竜田川では谷田町にひとつ、壱分町にひとつ、合計2か所あります。

記者 今回の水位計の不具合は、この2か所のうちの1ヶ所だけですか。

担当課長 2か所とも不具合が出ておりました。

記者 不具合の原因については、2か所とも同じですか。

担当課長 どちらも同じ状況と聞いております。

記者 2か所とも同じ設定で、急速に水位が上昇し、同じような不具合が発生したということですか。

担当課長 詳しい部分の確認はできておりませんので、奈良県に確認をお願いします。

記者 水位計が見られなくなった時間は何時頃ですか。

危機管理監 水位計の確認ができなくなった時間帯は、6月26日の5時50分頃から15時30分頃です。

記者 6月26日の5時50分までは河川状況の確認は、どのようにされていたんですか。

担当課長 竜田川の水位計や監視カメラの状況確認は市民の皆さんと同じでインターネット回線を介して確認しておりました。

記者 竜田川の水位計や監視カメラが確認できなくなった後は、どのように状況確認をしていましたか。

担当課長 市民からの通報であるとか参集する職員や現場確認の職員からの報告で確認しておりました。

記者 現場確認の職員の安全確保はできていましたか。

市長 当然、安全に配慮して参集や現場の確認を行ってもらっています。

記者 水位計や監視カメラの不具合やエラーの確認は県と市と同時にできますか。

市長 県に確認していただくのがいいかと思います。

記者 今回のような豪雨の場合、システムがエラーになることの見込みはあったのでしょうか。

市長 過去にこのようなエラーの発生はなく、その原因や意味について生駒市ではわかりませんでしたし、予見もしていませんでした。

記者 水位計等の不具合が、5時50分からあったとのことですが、県にそのことをいつ頃伝えましたか。

担当課長 26日中には連絡しています。また、市町村が発令する避難情報等を判断する際には、現場の状況と水位計や監視カメラでの定点の情報と今後の気象情報等を予測するキキクルの3つを総合的に判断していきますので、そのうちの定点情報が欠けていても判断に影響があったわけではありません。

記者 水位計が確認できなかったことと、避難指示等の関連性を再度改めて整理してお尋ねします。

市長 担当課長から申し上げたように、水位計や監視カメラを確認できなかったという中で被害状況につきましては、市民の皆さんや参集職員、現場確認職員から確認し、判断をしておりました。竜田川が溢水し、床上浸水等の情報もありましたので、今回は、水が引いて安全に通行ができる時に避難指示を出したものです。

記者 被害の広がり特に影響があったということはないという理解ですか。

市長 被害の広がりについては、今回の水位計の不具合は直接関係はないと思っています。

記者 昨日、県に要望書を提出されましたが、県が水位計を改修したのも昨日ですか。

市長 昨日の要望内容は、早期の河川改修です。同時に口頭で水位計の要望もお願いしました。7月1日に危機管理課から奈良県の担当に申し入れを行い、水位計の改修は既に実施されていきました。

記者 いつ改修になったかわかりますか。

市長 具体的な日は聞いておりませんので、県に確認ください。

記者 他の河川でも水位計は同じようにエラーになるようなシステムになっていたのでしょうか。

市長 県に確認していただけますでしょうか。

記者 竜田川の河川改修の状況はどのようになっていますか。

市長 現在、従来から水害が多い南生駒駅の周辺を河川改修していただいています。河川改修については下流からやっていくことになっていきますが、南生駒駅周辺まで来ております。そこから上流域について

も、河川の改修を急いでほしい旨を昨日申し入れました。

記者 内水氾濫ではなかったのですね。

市長 今回の浸水問題は、短時間に大量の雨が降ったことによる河川の溢水が主な原因であります。

記者 水位計の確認は、インターネットを見る以外、県の水防の本部からの FAX が届くことはないのですか。

危機管理監 FAX の仕組みもありますが、機能しておりませんでした。

記者 2 か所の水位計のエラーが解除された理由はわかりますか。また、水位計の設置者はどこですか。

市長 県のシステムですので、エラー解除の理由はわかりません。水位計の設置者は奈良県だと思いますが、県に確認ください。

記者 氾濫した時間帯は、わかりますか

危機管理監 具体的な時刻はわかりません。

市長 6 時頃には溢水していた可能性はありますが、広範囲でしたので、どこで、いつなど具体的な情報は、はっきりとしません。

記者 浸水地域から水が引き出した時間帯はわかりますか。

市長 浸水していた地域や各戸により違いますので一概には言えませんが、1 時間半程度で引き始めたところもあるようです。竜田川からの水の溢れは比較的早い段階で引いたと理解しています。

記者 資料にある浸水した世帯数は、現状では変わっていませんか。

担当課長 資料にあるのは、災害対策本部の設置後にあった本部への通報件数です。もう一つの指標として罹災証明書の申請があり、そちらは 7 月 22 日時点で 164 件になりました。今後も申請は増える見込みです。

記者 今回の浸水災害を通じて市民の理解を深めることは考えていますか。

市長 浸水の被害が出る可能性のある地域は、全部の自治会やサロンなどで今回のような急激な大雨への対応について、お伝えしなければならないと考えています。

浸水時の垂直避難や土のうの備蓄など、普段からの備えも含め丁寧に説明をしていきたいと思います。

記者 浸水地域に対して最初に市から危険性のメッセージを送られたのは、いつ頃ですか。

市長 避難指示を出したのは 7 時 30 分です。通常、避難指示を出した場合、避難所に行くことを想定される方が多いこともあり、今回に関しては道路と川や水路等の境目がはっきりせず、避難所への誘導は難しいとの判断から、雨量が落ち着いてから避難指示を出しました。

今後のことですが、今回のような場合、レベル 5 の緊急安全確保を出すことも検討していく必要があります。

記者 氾濫危険水位を超えた情報の一番最初の入手は何時何分どちらからになりますか。

担当課長 氾濫危険水位を超えた連絡は、5 時 50 分の郡山土木事務所からの電話です。

記者 5 時 50 分の段階で竜田川の氾濫危険水位を超えたという情報は公式に受け取られて、そういう認識があるわけですね。

担当課長 それが電話での第一報になります。その 3 分後にレベル 3 大雨警報発表されましたので、自動参集職員のメールがあり、職員が参集し始めました。

記者 水位計のエラーで水位計が確認できないことを認識されたのはいつですか。

担当課長 5時50分過ぎかと思います。

記者 市長が、この閉局という状況について聞いたのはいつでしたか。

市長 水位計が見られなかった状況を聞いたのは7月中旬です。

記者 それは危機管理のトップとして、遅くないでしょうか。

市長 水位計で水位が確認できなかったのは大きな問題だと思いますが、それは先ほど申し上げたように、既に浸水している状況はわかっておりました。この時は、被害対策を打つことに判断は移っておりましたので、水位が確認できないことにより判断が遅れたということではありません。

記者 水位計の不具合が生じていることについて奈良県に連絡すれば水位計の数値が分かったかもしれませんが、連絡はいつされましたか。

担当課長 26日中には連絡していますが、連絡した時間までは手元ではわかりません。

市長 レベル4が出ている中では、むしろその水位を確認するよりは土砂災害被害、道路の冠水など復旧をどのように進めるかの検討フェーズに入っておりました。

記者 災害現場で職員の皆さんは、精一杯やられていたことだと思いますが、水位計が確認できないことが市長に報告が上がってないのはなぜですか。

担当課長 その時は報告しておりませんでした。

市長 水位計は確かに大切な要素ですが、災害対策本部が立ち上がった時点では、被害報告が入っている状況でした。復旧の作業の支援をどのように進めるかの検討フェーズに入っていたので水位計の水位を確認する必要はありませんでした。

ただ、市民も見る水位計なので、奈良県に情報がきちんととれるように強く申し上げているということです。

記者 今後、このような異常が発生した場合に、情報共有の徹底をする必要はあると考えられますか。

市長 その時に必要な判断材料を収集し、報告することは当然ですし、必要なことです。

記者 5時50分の時点で、県から氾濫危険水位を超えたという連絡を受けた時は、竜田川の水位に関しての認識は、どのようなものでしたか。

市長 雨が降ってますし、水位は上がる可能性はあったと思います。

記者 その時に、水位の確認はできてない状況だったということですが、水位が上がるかわからない状況で、水位の確認は必要ではなかったのですか。

市長 雨がまだ強く降ってましたし、山から水が入ってくるものもありますので、5時50分以降も水位計が見ることができれば良かったとは思いますが。

ただ、実際は6時過ぎぐらいから川の水が溢水していた状況の中で6時15分にレベル4が発令されておりますので、浸水想定地域に水が来ている認識はしっかりありました。

記者 取材する中で、やはり周りがいきなり水に囲まれて逃げられない状態で危険性を伝えられても、避難指示をもうちょっと早く出して欲しかったっていう声をよく聞きますが。

市長 ゆっくり避難して避難所まで行ける時間的余裕があれば、避難してくださいという対応もできると思いますが、今回は間に合わない状況でした。

気象台がレベル4を出した時点では既に浸水していた状態だったと思います。避難指示で避難所に行くことを想定される方が多い中で、レベル5の緊急安全確保を出さなければいけなかったのかは今後検証が必要かと思います。

記者 既に水が入ってきてしまってから避難指示ではなくて、もう少し早く避難指示があれば垂直避難や、荷物を上に上げたり、車の移動、体不自由な人は車で高台行けたかもしれない、そういうことも聞いたりしましたので、今後同じよう豪雨があった時に、水が来る前に、もう少し早い段階で対応ができないのかということをおっしゃっていました。

副市長 気象台の前日の発表も確認して体制をとっていましたが、雨量予測は注意報のレベルでした。しかし、朝方に急にすごい雨が降ったことから、郡山土木から氾濫危険水位を超えた連絡があったのが5時50分。その3分後にレベル3の発令があり警戒本部体制を取って高齢者避難を検討している時に、今度は土砂と大雨のレベル4が発令され災害対策本部体制に移行していますので、しっかりと体制としては取っていたものです。

記者 今回の災害を受けて、危険な情報をできるだけ早く伝えるためにどうのことを考えられたり、検討されるのでしょうか。

副市長 気象台の予報がない中で独自に避難指示を出すのは今回のようなケースでは非常に難しいですが、レベル3の時点で、浸水想定区域の市民の皆さんには、垂直避難も含めて、避難行動をとってもらうように周知していくことが大事だと思います。

市長 避難指示の理解についても、市民とのコミュニケーションができてないといけないと思うので丁寧に地域を回って市民にきっちりと伝え、わかっていることが重要であると考えています。

記者 今回、浸水被害は多数出ましたが、死者やケガ人はなかったという状況の中で、生駒市としてどのような教訓を得ましたか。

市長 人命に関する被害が出なかったのは何より良かったと思います。今回、浸水被害や土砂災害、道路の陥没など非常に大きな傷跡を残しました。市民をはじめ、自治会、民生委員、市内事業者の皆様やボランティアの皆様のお力をいただいております、本当に感謝申し上げたいと思います。

教訓という意味で言うと、従来の台風と今回のような気象台の予測を超える豪雨は全く違うものであるということです。通常は、気象台の情報をもとに予測をするわけですが、警報が発令されたときには既に川は溢水し、土砂災害が起こっている可能性もありました。

生駒市のような川の一番上流部にあたる自治体では、今回のような短時間に多くの雨が降った場合の避難指示の出し方など、今後の対応策については考えるところがあると思います。